

第19回 都市環境デザインフォーラム関西

東日本大震災と都市環境デザイン会議関西

20年間の活動と新しい地域空間の再生にむけて

6月11日は、東日本大震災から3ヶ月目の節目にあたる。

地震、津波、原発とそれに惹起された風評被害が発生し、その影響は日本だけでなく、世界的な広がりを見せている。震災直後の緊急対応が今も続き、国を中心とした被害状況の全貌把握や復旧・復興に向けた各種の施策も動き始めたばかりである。被災地域は広範であり、大都市から中小の地方都市、農漁村まで多様な市街地や集落を含み、その復興過程は市街地空間のみならず、産業や日常生活、コミュニティの再建などなど多様な要素を総合的に配慮されねばならない。

都市環境デザイン会議(JUDI)は発足して20年を迎える。この間、JUDI 関西では、公共空間のデザイン向上や都市や田園景観施策の推進などに大きな影響を与えると共に、阪神淡路大震災の復興においては、専門家集団、職能組織として少なからぬ実績を残している。その一方で、復旧・復興の応急策に追われ、都市環境デザインとして、気づかなかつたこと、やり残したことも多々ある。20周年という節目の年に、奇しくも大規模な災害が発生し、都市環境デザインと地域空間の再建・復興というテーマに、JUDI あるいはそのメンバーが関わろうとしている。

JUDI 関西では6月と7月の2回に渡って、東日本大震災をテーマにフォーラムを行う。6月は関西ブロックを中心として、「被災市街地をその規模と空間構成からタイプ分けし、それぞれに応じた地域空間像と実現課題」を議論する。ここでは被災状況の全体像を概観する被災マップの整理や市街地の状況を報告するとともに、被災地のタイプ別に復旧・復興の地域空間像とその実現に向けた問題点や都市環境デザインとしての配慮事項などを議論する。

7月には、JUDI 全国大会(奈良)の開催に併せ、「復興に向けた都市環境デザインとマネジメント手法」を議論し、今後、被災地において主体的に検討される復興像のための手掛かりを議論したい。

2011年6月11日(土) 中央電気倶楽部

プログラム

14:15: 開場

14:30: フォーラム趣旨説明

15:00: 被災市街地及び被害の類型化とまちづくり提案の作成方針

(報告者: 鳴海、中村、角野、他、現在調整中)

7/16 全国フォーラムにむけて

17:00 閉会

参加費

都市環境デザイン会議会員 500円 / 会員外 1000円 / 学生 500円

定員 40名 / 申し込み先着順

7月16日(土曜日) 2時 / ならまちセンター(市民ホール)

20周年記念フォーラム「(仮題) 東日本大震災・復興まちづくりを考える」

詳細未定